

# 「学力」を育てる歴史教科書 —コミュニケーションスキルの重要性—

愛知教育大学教育学部助教授 土屋 武志

## 1. はじめに

私は、10年余りの中・高校の教師経験のあと教員養成大学に勤務している。専門は「社会科教育学」である。この学問を論じるための全国学会は、設立以来50年を超えている。教科教育学の一分野として、「社会科教育学」があることをご存じの方も多くなってきた。大学では、この授業は教員免許状取得のための必修科目である。しかし、教師という職業は、教職に就いてはじめて切実性が増す職であり、大学卒業後に「社会科教育学」という学問の必要性を実感された方も多いと思う。私もその一人だった。教科書をエピソードを交えておもしろく解説すれば、生徒が楽しく興味を持って聞いてくれる「よい授業」ができると思って、教師生活をはじめた。しかし現実には、…。

現在、生徒が受け身で、教科書の内容を教師から一方的に解説されるタイプの授業が成立しにくくなるとともに、そのような授業では、生徒の「思考・判断」「資料活用・表現」さらには「興味・関心」を評価することはできず、その結果、授業を根本的に改善しなければならない切実な問題に直面する教師が増えている。

私は、そのような教師そしてその授業の主体である生徒にとって、これまでの授業と違った学習に取り組むことができる手助けとなる教科書とを考え、帝国書院の教科書づくりに携わっている。その立場から教科書のどこに注目すべきか解説する。

## 2. 「学力」を育てる授業と教科書

社会科の学力がいわゆる単純な「知識・理解」にとどまらないということは、社会科教師として

常識だろう。ところが、「歴史」となるとすでにおきてしまった過去であり、変更不可能な「事実」であり、それを覚えることが学習であるという考えが根強い。「思考・判断」はせいぜい事件の前後関係を判断する活動であったり、「表現」は教科書の要点整理だと思われる場合もある。

しかし、歴史学習で最も重要なことは、未来を築くうえでどのような「過去」をふまえるかという点に気づかせることであり、そのような思考を授業を通じて身につけさせることである。彼らは、将来「主権者」として政治に参加する人々である。「過去」から何を考え、そこから将来をどう設計するかは私たちすべての未来にかかってくる。

このように考えると、歴史学習において「判断力」を育てる授業は非常に重要になる。たとえば、「中世社会から近世に変化するうえで、もっとも重要な役割を果たした人物は誰か?」とか、「人々が日中戦争を支持するようになるときに最も重要な役割を果たした法律は何か?」など、ある出来事が生じた要因を判断し選び出す学習課題は、人や施策がその後の歴史を創ることに気づかせてくれる。

そして、このような授業（学習活動）を成功させるコツは2つある。一つは、生徒が考えた結論に根拠があるかどうかを生徒自身に考えさせ、一つでも二つでも探させることである。二つめは、そのような根拠に立って討論させることである。このとき、他者と自身との違いを大切にさせるとよい。他の人が考えないようなことに気づいたり、異なる観点から意見することを保障する。生徒は、他者と自身との比較の中で、他者のよさを見つけて自身を変化（成長）させたり、自身の主張により自信を深める。人は、他者の存在がなければ育たないものである。だから学校がある。学校は、多様な他者との関わりの中で子どもが育つことを

### 歴史探偵

このコーナーでは、歴史のなぞときをやってみよう!!  
——なぞはいまだに説明されていない

## 残されたビードロ鏡が語る物語

1979年から10数年間わたって、浅間山など2000m級の山々に囲まれた、群馬県の碓氷村で発掘調査が行われた。鎌原村(いまの碓氷村の一部)の建物あとなどから、貨幣やべっこうでつくられた髪かざり・陶磁器・輸入生糸につけられていた糸印など江戸時代の遺物が見つかった。なかでも、調査にあたった人々をおどろかせたのは、小さなビードロ鏡であった。それは、裏に水銀をぬったガラス製の鏡で、ヨーロッパ風の貴重なものであることがわかった。

これが鏡なの?  
→① 発見されたビードロ鏡 (群馬県 碓氷郷土資料館蔵)

右の絵は、江戸時代に一般的に使われていた鏡で、それは、銅の版をみがいて顔がうつるようにしていた。これに対して、発見されたビードロ鏡は、今日の鏡に近い作り方でつくられていた。

あなたたちの想像力にかかっているのだ。  
また疑問がきた。いったいそれが何なのか?  
→② 江戸時代の一般的な鏡

### 挑戦状

「鎖国」の時代といわれる江戸時代になぜヨーロッパ風のビードロ鏡が山間部の碓氷村にもたらされたのか。鏡が見つられてここにいるまでの物語を考えてみたまえ。今回は推理は自由だが、「情報」を使って理由を考えることを忘れないように。  
ミスター・ミステリーより

### 情報1 碓氷村から発見された石段の遺跡

鏡首の石段の下から2人の女性の遺骨が発見された。石段は15段が地表に出ていたが、発掘の結果、全部で50段であることがわかった。遺体は、地表から約5m下の1段目付近で見つかり、調査の結果、1783年のものとわかった。

35段分も埋中に埋もれていたのね。  
→③ 発見された遺体 (群馬県 碓氷郷土資料館蔵)

前提としたシステムである。学級の生徒たちの能力に大きな開きがあって関わり合いのある授業を実践できないというような場合は、社会科の得意な生徒と不得意な生徒とをペアにして活動させるなどの工夫や、一度や二度の失敗は当たり前のこととして、複数回のチャンスを与えるなど、技術的な工夫を行って生徒相互のコミュニケーションのある授業にチャレンジすべきだろう。教科書もまた、このような授業を前提としてそれをサポートするようにつくられなければならないだろう。

帝国書院の中学校社会科歴史的分野の現行教科書では、「歴史探偵」のコーナーがこのような意図から編集されている。また、本文中関連する他ページとのリンクをとっていることもこの視点から重視している。コラム・資料や本文の記述との関連が示されていて、生徒は、教科書を使ってみずから調べていくことができる工夫をしている。また、現行教科書の56ページには、「年表づくり」のコーナーがある。年表は、与えられるものでなく、生徒自身が、みずからの歴史の見方を説明(表

### 情報2 天明3(1783)年 碓氷村に大規模な噴火

天明3年4月9日(西暦の1783年5月8日)  
最初の噴火  
7月6日から7日にかけて、はげしく噴火  
8日午前、大爆発。浅間山からふき出た火砕流は、土砂や岩石をまきこみ猛烈な土圧でなれとなって碓氷村をのみこむ。約570人の住民のうち477人死亡。

碓氷村に落ちる街道

これを発見して、碓氷村には、いろいろな人たちが来ていたのかもしれないよ。

④ オランダの商船ゴッホの絵にえがかれた浮世絵(「カンパー船さん」フランス ロダン美術館蔵) ゴッホ(1851-80)は熱心に浮世絵の技法を学んだといわれている。

⑤ 江戸の町をゆく像 (山王親王立御殿) 東京国立博物館蔵

### 年表をつくってみよう

年表をつくると、時代の変化や切れ目、特色などがわかります。また、いろいろなできごとを時間の流れのなかで比べることができます。このような年表を自分でつくってみましょう。

教科書のなかから年表に入れた重要なできごとをその年代とともに拾いだし、ノートに書きだしましょう。そして、書きだしたできごとを「政治のしくみ」「外国とのつながり」「人々のくらし」「文化の特色」の四つのテーマに分け、それぞれにあたるかをメモしておきましょう。

下の図のように、横軸に時間のもりも、縦軸に四つのテーマを書きこみましょう。横軸のもりも、原則として一つの時代区分(原始・古代・中世・近世・近現代)のなかでは、同じはばで入れます。

ノートに書きだしたことがらを、②のわくのなかに書きこみましょう。そのときに、できごとがおこった年と横軸のもりが合うように気をつけましょう。

年表のそれぞれのテーマの内容をみて、変化のくぎりと考えられるところに線を入れましょう。そして、どう理由で時代をくぎったか、それぞれの時代の特徴は何かをノートにまとめましょう。

年表をついたら、この変化のくぎりをさがす作業がたいがうなんだよ。  
私は、年で線を引いたところにくぎりがあると気づいたので、入れてみたわ。

政治のしくみ	外国とのつながり	人々のくらし	文化の特色
原始			
古代			
中世			
近世			
近現代			

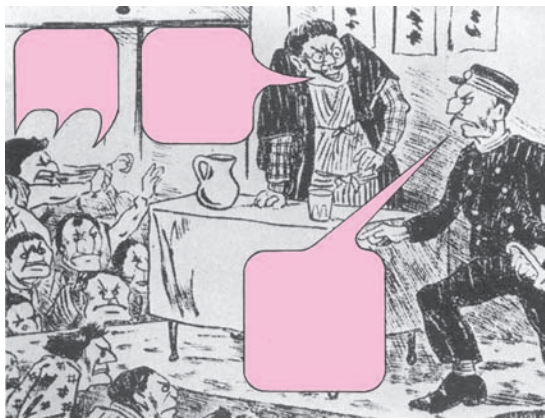


現)する手段として作成する。このような考えで設けられたコーナーである。

### 3. ツールボックス (道具箱) としての教科書

現行教科書は、いま、大幅な改訂作業の途中である。現行教科書のコンセプトをふまえて、パワーアップ中である。注目したいコンセプトは、「教科書は、ツールボックス」という観点である。欧米では一般化してきた教科書観であるが、生徒自身が調べるために情報は多めにし、そのかわり調べるきっかけとなる仕掛けや課題を適切に配置するという発想を大事にしたい。教師が一方向的に教えるのではなく、課題のもとに調べ考え表現 (討論) するような授業をとおして生徒自身が楽しみながら使える道具箱の教科書。ある意味ワークブック的な教科書に近づき、しかも従来の授業でも使えるとよいと思う。

現行教科書でも、160ページに自由民権運動の演説風景の風刺画に吹き出しをつけるところがある。これは、現行教科書以前から引き継いでいる工夫であるが、このような工夫は帝国書院の教科書の得意とするところといえる。このように、絵画資料を単なる記憶の補助資料とするのではなく思考のきっかけとする方法は、これから一層重視されるだろう。



「中学生の歴史 最新版」p.160

絵画資料やイラストをもとに生徒たち自身が時代を飛び越えて過去に調査に出かけるという教材を考えたい。その教材を使えば、古代なら「渡来

人を捜せ」や中世なら「一遍上人を捜せ」などの学習活動ができるかもしれない。もちろん捜すだけでなく、「彼に手紙を届けよう」「インタビューしてみよう」などの活動もできるだろう。その学習活動の中でそう考える理由として本文の中で述べられているその時代の出来事や文化などを「情報」として用いざるを得なくなる。

繰り返すが「過去」をどう見るかは、生徒自身に考えさせなければならない課題である。「歴史」は現在と過去との対話であるが、それは、未来のための作業である。生徒自身が「過去」をどう評価するか。それが学習活動の中心課題である。その「過去」の評価のうえにこれからの政治が動いていく。

現行教科書211ページには広島で亡くなった少女の日記を載せている。この少女の死をどのように評価するかで、歴史そして未来が書き換えられよう。それを考え、友だち同士論議できる授業に使える教科書。帝国書院の教科書は、このような教科書といえる。しかし、まだまだ不十分である。社会科教育学の研究に携わるものとして、実践者の工夫とそれにもとづく声に耳を傾け、よりよい教科書としていきたいと考えている。

**ある少女の日記** (細川浩史・亀井博編「広島第一県女一年六組 森脇珠子の日記」より、一部要約)

**【八月三日 (金) 晴れ】**  
 少しからだがつかれたような気がするが、このくらいは何でもない。お姉さま方は、全部、いろいろな方面で、いっしょうけんめいに、働いていらっしゃるのだ。どうして、どうして「つかれた」などといわれようか。明日も農園に行く。いっしょうけんめいに行ろう。(※お姉さま方=女学校の上級生)

**【八月四日 (土) 晴れ】**  
 今日も農園の作業であった。昨日と同じように暑かったが、がまんしていっしょうけんめいやった。帰宅とちゅう、枝橋で帽子を海に飛ばした。目の前でゆれているのだが、とれなかった。せっかく、母が買ってくれたのにとすると、残念でならない。どうも気持ちがおもしろくない。

**【八月五日 (日) 晴れ】**  
 今日は、家庭修練日である。昨日、叔父が来たので、家がたいへんにぎやかであった。「いつも、こんなだったらいいなあ」と思う。明日からは、家屋敷間の整理だ。いっしょうけんめいがんばらうと思う。

**少女の断絶を看取った女性の記録**

あまりにもからだ全体のやけどがひどく、重傷でしたので、これでは助かりかねると思い、いっしょうけんめい、看護いたしました。…中略…  
 「お母ちゃん、まだ来てないん？」と、いくども聞いていらっやいました。「もうすぐ見えるよ、もうすぐよ、しっかりしていなさいね、がまんしてね」と、いくどなくさめたかわりませぬ。「お水ちょうだい」「お茶ちょうだい」「背中をなでて」「胸をなでて」「胸をさすって」「胸を軽くたたいて」「おばちゃん、手をにぎらせて」「暑い、あおいで」とおっしゃるので、手を取ってさしあげました。  
 こうして、お母様のお見えになるのを、お嬢さんといっしょに待っていましたけど、とうとう、いっしょにいらなくなるに永眠なさいました。

▲ 8月5日を最後に、少女によって日記が書かれることはありませんでした。8月6日に少女が死亡したからです。少女は広島原爆によって亡くなりました。13歳でした。

「中学生の歴史 最新版」p.211